

検査採血料区分の設定

検査マスタの採血料区分を設定する方法について説明します。

ツールパッケージ(jma-receipt-set-saiketukbn-190207.tgz)は、日レセのバージョン 5.1.0 及び 5.0.0 に対応しています。

- (1) コマンドによる処理を行いますので、主サーバでターミナルエミュレータを起動します。
- (2) データベースをバックアップします。

```
$ sudo -u orca pg_dump -Fc orca > バックアップファイル名  
(例) $ sudo -u orca pg_dump -Fc orca > orca.dump
```

- (3) ツールをダウンロードします。
採血料区分を設定するツールをダウンロードして展開します。

```
$ wget http://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/jma-receipt-set-saiketukbn-190207.tgz  
$ tar xvzf jma-receipt-set-saiketukbn-190207.tgz  
$ cd jma-receipt-set-saiketukbn-190207
```

- (4) 処理を実行します。
スクリプトに渡す引数には、医療機関識別番号を指定します。
1 医療機関の設定の場合は、医療機関識別番号に「1」を指定します。
グループ診療機能により複数医療機関の設定をしている場合は、採血料区分の設定を行う医療機関識別番号を指定して処理を行います。

また、改対応では改施行日以降のマスタを対象としたい場合がありますのでマスター日付（西暦8桁）を指定します。改対応以外の場合は省略しますが、省略した場合は、マシン日付をマスター日付とします。

```
$ sudo -u orca bash jma-receipt-set-saiketukbn.sh <医療機関識別番号> [マスター日付]  
  
(例) $ sudo -u orca bash jma-receipt-set-saiketukbn.sh 1
```

- (5) 処理結果を確認します。
処理結果は標準出力に表示されます。

採血料区分設定処理 開始

採血料区分設定処理 医療機関識別番号 [01] マスター日付 [20190207]

採血料区分設定処理 入力件数 : [556]
 追加件数 : [556]
 更新件数 : [0]
 区分相違件数 : [0]
 区分同一件数 : [0]
 スキップ件数 : [0]

採血料区分設定処理 終了

「入力件数」 採血料区分を設定する元データの処理件数です。

「追加件数」 採血料区分を設定する検査マスタデータが点数付加テーブルに存在しない場合に新規作成した件数です。

「更新件数」 採血料区分を設定する検査マスタデータが点数付加テーブルに存在し採血料区分を設定して更新した件数です。

「区分相違件数」 採血料区分を設定する検査マスタデータが点数付加テーブルに存在し、すでに採血料区分が設定されているが元データの区分と異なる場合の件数です。
 この件数がある場合は、処理の途中で以下のようなメッセージが出力されます。

採血料区分設定処理 採血料区分が違う [1600xxxxx] : DB [2] <> CSV [3]

検査マスタ 1600xxxxx について既に「2」が設定されており元データは「3」を設定しようとしたことを表しています。
この場合はテーブルのデータを優先しますので更新は行いません。

「区分同一件数」 採血料区分を設定する検査マスタデータが点数付加テーブルに存在し、すでに採血料区分が設定されており元データの区分と同一である場合の件数です。

「スキップ件数」 採血料区分を設定する検査マスタが点数テーブルに存在しない場合、スキップした件数です。
 この件数がある場合は、処理の途中で以下のようなメッセージが出力されます。

スキップ マスタ廃止? [160xxxxxx]

- (6) 作業フォルダを削除します。
 処理が終了したら作業フォルダを削除します。

【検査採血料区分設定】

```
$ cd ..  
$ rm -fr jma-receipt-set-saiketukbn-190207  
ダウンロードファイルも削除する場合は  
$ rm jma-receipt-set-saiketukbn-190207.tgz  
を実行します。
```

以上で作業は終わりです。